

● 親睦事業報告 ●

# ～第4回親善野球交流試合～



会員交流委員会 委員

山陰建設工業(株) 伊藤正彦

日時 平成23年8月19日(金) 18:30

場所 出雲ドーム

対戦相手 出雲県土整備事務所

結果

Team	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Total
青年部	1	0	4	3	4	0	0	0	0	12
出雲県土	1	0	1	0	2	0	0	0	0	4

毎年の恒例行事になってきた、出雲地区青年部会 会員交流委員会主催による「親善野球交流試合」が昨年も8月19日に出雲ドームで開催されました。

青年部会チームの過去の成績では第1回は原商連合チームを9対2、第2回、第3回は出雲県土整備事務所チームを6対5・15対4ですべて勝利し、今回も連勝となりました。

昨年に引き続き出雲県土整備事務所 農道・防災グループの堀田主任の下、お忙しい中人数を集めていただき、皆様にはお世話になり大



にこやかに開会式

変有難く思っています。但し、試合になれば手加減なしで皆さん試合に挑みました。

試合は2回までは1対1で好ゲームでした。3回表に青年部会チームに1点の失点がありましたが、その裏の回から猛打戦が始まりました。4点を入れ、4回には3点、5回には出雲県土チームが2点を返しましたが、またその裏に青年部会チームがまた4点を追加…終ってみれば結果は12対4で



打合わせは念入りに

青年部会チームが勝利しました。投手は先発を原監事、リリーフは小村さんが好投、打線は山口部会長、花田監事が爆発打線の鍵となる活躍でした。私は選手で参加させていただき、あまりいい結果を出せませんでした。ファーストストライクからしっかりとスイングをし、打てた時には1塁ベースまで猛ダッシュし、いい汗をかくことができました。

両チームとも、白球を追いかける姿は真剣で、声を掛け合い、知恵を出し合い、時には笑い声もあり、交流を深め、楽しむことができました。一企業ではなく多数の企業が一つのチームとなり、一丸となって目標を達成することは今後の建設業界において、なくてはならない状況です。この機会を活かし、今後のコミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。

最後になりましたが、ご協力頂いた出雲県土整備事務所の皆様、選手、応援、準備でご参加の皆様、ご苦労様でした。今後も宜しくお願い致します。



構えは十分

打った



走れ



● 地域貢献事業報告 ●

# ～2011 海岸清掃～



地域貢献委員会 副委員長  
ミシマ産業(株) 三島 一男

日時 平成23年7月29日(金) 9:00

場所 大社町湊原海岸

出雲県土整備事務所からは宮川所長はじめ17名、出雲市役所からは5名の参加をいただき～2011海岸清掃～を実施しました。

一昨年までは、主要幹線道路である国道の清掃活動を行いました。我々の活動が実を結んだのか、徐々に市民の皆様の意識が高まったこともあり、昨年より「道路」から「海岸」へと場所を移し行うこととなりました。

「道路清掃」と「海岸清掃」の大きな違いは、道路に落ちているゴミは所詮、道徳心の欠如したドライバーがポイ捨てをした空き缶やら吸い殻などが大半で、ゴミの大きさや量も想定内のものがほとんどです。ところが、海岸に流れ着いたゴミということ、相手が大自然ということもあり、我々の想像を絶する量、大きさ、そして様々な種類のものが漂着しています。



清掃活動の当日、現地に到着しその風景を眺めたとき、ある光景を思い出しました。それは、昨年の3月11日に発生した未曾有の大災害、「東日本大震災」の復興支援として4月下旬に岩手県の海岸沿いの町、山田町へ赴いた時に目にした光景です。高さ十数メートルはある防波堤がなぎ倒され、全ての建物が残骸と化し、自動車や船舶が縦横無尽に横たわる。いたる所に作られたゴミの山。目を覆いたくなるほど悲惨な光景でした。

## 海岸清掃内容

場所	大社町湊原海岸	
参加者	青年部会員	39名
	出雲県土整備事務所	17名
	出雲市役所	5名
	オーケーリース(株)	1名
	(株)原商	1名
	(株)リョーキ	1名
	(総勢)	64名)
収集車	4トンダンプ	5台
	2トンダンプ	3台
	ミニバックホウ	3台
ゴミの量	約30立方メートル	

そこで私に芽生えた感情は、日々の暮らし、当たり前前に過ごしてきた日常への「感謝の念」です。

多くの漂着物が流れ着いた湊原海岸を眺めたとき、改めてその「感謝の念」が呼び覚まされました。

ボランティアとは感謝の気持ちが無償で表現することだと考えます。私達は自然や環境に生かされており、その恩返しとして「清掃活動」を行ってきたのではないのでしょうか。

そのような気概を持って、今回の海岸清掃へ臨むことにより、大変充実した気持ちで取り組む事が出来ましたし、清掃が終わった後の達成感も非常に心地よいものとなりました。

昨年より多くのゴミが回収できましたのも、きっと参加されました関係者の皆様が同じような気持ちを持って清掃活動に取り組んだからではないのでしょうか。

この事業を単なる清掃活動としてとらえるのではなく、参加者一人ひとりがしっかりと自分の目的意識を持って行うことにより、より効果的で、有意義な活動となるでしょう。



清掃前



清掃後

## 私の趣味……？



(株)フクダ 船木博之

この度、趣味について「青雲」に寄稿させて頂くことになり、パソコンに向ったのですが…、「私の趣味って何？」思わず考えこんでフリーズ状態…。熱しやすく冷めやすい性格が災いしてか、いろんなことにすぐはまっては飽きてしまうことばかりでした。

過去を振り返ってみますと、小、中学生のころは魚釣りにハマり、「〇〇の場所が釣れるらしい」と聞くと、その場所がどんなに遠くても自転車に釣り道具を載せて釣りに行きました。魚が仕掛けにかかった時の「ヨッシャー」という一瞬が快感で、学校の授業中もこそそと釣りの本を見ては餌や仕掛けを研究したり、朝から友達と釣果や釣り場についての話で盛り上がりとかかなりはまっていました。また、実家の裏には小さな池があり釣れた魚を飼って楽しんでいたのですが、いつの間にか鳥に食べられて全滅してしまいました。

大学生の時にはモータースポーツが流行していたときでも有り、また廻りの友達が車やバイクを乗り回しているのが羨ましくて車が欲しくなり（ヘルメットをかぶると頭がハゲルとの噂からバイクは却下）車を買うためにアルバイトに明け暮れ念願の車（EF系シビック）を購入、週末の夜には走り屋の集まる阪奈道路や環状線へギャラリーとして見物に行ったり、友達とロングドライブへ出かけたりといろいろな思い出を作ってくれました。今でもたまに同型の車を見かけると懐かしい思い出が甦ってきます。

その他にも、スキー・パチンコなどいろんなことにはまりましたが、現在は趣味というより暇つぶし程度で子供達が寝た後見る海外ドラマぐらいです。おすすめはCSIシリーズ（科学捜査刑事物）で1話の中でいろんな事件が同時進行で進むのでなかなか面白いですよ。

今後は子供と一緒に楽しめる趣味があればと思います。皆様のおすすめの趣味があれば是非とも教えていただければと思っております。



一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会青年部会  
**歴代部会長**



初代部会長	山本 恭 則	【平成9年度】
第2代会長	今岡 裕 統	【平成10～13年度】
第3代会長	別所 幸 雄	【平成14・15年度】
第4代会長	広戸 修	【平成16・17年度】
第5代会長	久文 秀 典	【平成18・19年度】
第6代会長	山崎 章 弘	【平成20・21年度】
第7代会長	山口 弥	【平成22・23年度】

**編集後記**

千年に一度とも云われる未曾有の大震災から一年が経ちました。被災地での問題はまだまだ山積みではありますが、メディアを通して少しずつ復興していく様子が見受けられます。この復興の源となっているのは、国内のみならず世界中からの義援金等による多くの支援が大きいと思います。

しかしながら復興していく上で、財源は必要不可欠なものではありますが、何といたっても復興の推進力となっているのは、人と人との結びつきであり、被災された厳しい環境の中でも周りの人と苦楽を共にして一緒に頑張っていきたいという思いから生まれる心の「絆」ではないでしょうか。

海外メディアは「日本には最も困難な試練に立ち向かうことを可能にする『人間の連帯』が今も存在している」、「ほかの国ならこうした状況下で簡単に起こり得る混乱や暴力、略奪などの報道がいまだに一件もない」などと日本人の気持ちの在り方について称賛しました。

同じ日本人として、とても誇らしく思えることでした。

私たちの業界もまだまだ先が見えない長いトンネルの中にいます。しかし暗闇の中にあっても確かな「絆」を持ち、お互いを思いやる気持ちを持てれば必ずや光明は射してくるものと信じています。

昨年は大変な年になりましたが、青年部会として数々の事業を行い皆様にご報告出来たことを大変嬉しく思います。また今回の青雲の発行に際しましてご協力を頂きました皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

総務広報委員会 副委員長 佐藤 精 一

一般社団法人 **島根県出雲地区建設業協会青年部会**

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)  
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。